

ハーレーに乗った美容師

～背中に名前を刻み込んで～

「別にいいけど俺の話じゃ勉強になんねえよ！」

「むっ」とした態度でした。ヘアデザイナーアース、坂井健司代表です。私と同じ位の年齢でしょうか、上下デニムで今風のファッション、美容師らしい短髪のオシャレな髪型、「ギョロツ」とした目。最初の印象は「ちょっと怖い」「話しにくい」といった感じです。私は今、会社の研修で「社長インタビュー」という課題に取り組んでいます。今日は以前、仕事でお世話になった、ヘアデザイナーアースという美容室にお願いに来ました。

店の外には、雨よけのカバーがかかっていたのですが、大型のハーレーが置いてあり、その隣には四駆の車があります。店内は、南国風の装飾がなされていて、中でもよく目につくのがバイク関係のグッズ。ヘルメット、皮ジャン、手袋なんかもあります。「バイク好きなのか」私はすぐに分かりました。レジ前にはミニチュアのバイク、その奥の壁にはたくさんの名刺が貼ってあります。坂井代表はミニチュアのバイクを見つめながら、話すのはかまわないが、勉強にはならないと言っていました。

店に入ってすぐ長椅子があり、私はそこに座りました。坂井代表はゆっくりとレジ前から出てきました。歩きながら「むっ」とした表情で顔だけ私の方に向けています。「怖い」私はそう思いながら、なんとか言葉を発しました。さらに初対面でしたから変な空気が流れます。それをなんとかしようと、無理やり作った笑顔で聞いてみました。今、時間は空いているのか、お客様の予約は入っていないのか、今日はこの後、何をしているのか等、必死でした。しばらく歯車の噛み合わない、口先だけの会話が続いてしまいました。私は焦りから、汗がにじみ、喉がカラカラに渴いてきました。坂井代表もそれを感じていたかもしれません。さらに私は、強引に様々な球を投げ込みました。その中で、幼い頃坂井代表が、私と同じ地域に住んでいた事、出身小学校も一緒だった事が分かりました。お互いが知っている人の名前、その人のエピソードなどが出てきました。やっと歯車が噛み合い、会話がキャッチボールになります。徐々に変な空気も消え始め、私が最初に感じた「ちょっと怖い」というイメージも消えました。話せば話すほど、お互いが笑顔になり、距離が近くなっていきます。「出身が一緒」この事がきっかけで私達は意気投合し始めました。そんな中、

坂井代表は自分の城「ヘアーデザインアース」を建てた時の話をしてくれました。

坂井代表は新潟の高校を卒業後、東京の美容専門学校を出て、そのまま東京の美容室で5年間修行しました。その後、新潟に戻り「ヘアーデザインアース」を建てました。今は6年目になります。私はその頃どんな苦労があったのか、聞いてみました。

「ああ、研修かなんかだっけ、苦労話が聞きたいの？」坂井代表は笑いながら言いました。「自分の店も持ったし、勉強になる様な話は無い」と言うのです。しかし私は、そんな簡単に自分の店を持つ事は出来ないというのが頭の中になりました。なぜなら、美容業界が厳しいという話を聞いたことがあるからです。

実は以前、他の美容業界の方とお話する機会がありました。人間の出入りが激しい事。店同士も、美容師同士も、競争が激しい事。修行が厳しい事。さらに、店の数が信号機より多い、なんて話も聞いていました。特に人間の出入りが激しい事。これは私の想像を超える、厳しい現実がある事を聞かされました。中でも男性は独立願望が強く、自分の店を持つ事を目標に働いているそうです。しかし、労働条件が悪い事や、資金の問題等で諦め、辞めてしまう人が多数いるそうです。でも、坂井代表の場合は違いました。笑いながら、本当に楽に自分の店を出せたと、私に自慢しているようにも感じました。「すごい、簡単に自分の店を持ってしまったのか」私は坂井代表をそんな風にじっと見つめていました。さらにこう続けます。

「店は一人でしているから気楽、気楽。」

坂井代表は本当に自由に気楽に仕事をしています。その証拠にお店は坂井カラーでびっしりです。店内を見渡すと、バイクという趣味が前面に出ています。仕事と趣味が一緒になっていて、まるでバイクショップで髪を切っているようです。坂井代表は仕事をしている事が楽しそうでした。「羨ましい」私はそう思いました。

その後1時間ほどいろいろな話をしました。話している間、お客様は誰もきませんでしたが。店は大丈夫なのだろうか、少し心配になってきました。今日はすでに3人のお客様が来ていったそうですが、この後はもう誰も来ないそうです。今は電話待ちの状態です。

「一日数名来れば飯は食えるからね」と坂井代表、私の心配は無用でした。こんな気楽で、充実した仕事の話の話を聞いていると、「美容業界が厳しい」という私の考えは、一気に吹き飛ばされました。以前聞いた話は一部の美容師の話で、やり方次第では、簡単に自分の店を持つ事も可能なのだと感じました。その「や

り方」はいったい何なのか、きっと「極意」があるはず。それも知りたくなり、坂井代表の事も、さらに深く知りたくなりました。しかし私はこの後、この「極意」の厳しさ、難しさを知る事になるのです。

坂井代表が自分の店を持つ前、修行時代の話です。その話の中に答えはありました。ちょうど今私は、新人営業マンです。言ってみれば修行中です。この話には身を乗り出して聞きました。坂井代表が修行時代はどんな人だったのか、何をしていたのかを、教えていただきました。修行時代は東京で7年過ごします。美容学校で2年、美容室で5年修行を積みました。私が「どんな修行をしていたのですか。」と聞いた時、坂井代表の雰囲気が変わりました。今まで話していた楽しそうな感じから、最初会った時の「むっ」とした表情になったのです。その修行は信じられないものでした。店舗前でのダッシュ、腕立て伏せ、声出し、朝練、夜練、上司や先輩の説教、中には美容師に関係あるのかという内容もあります。私は、「なぜそんな事まで」と思いましたが、取り組んでいた当時の坂井代表はもっと頭を抱えていたと思います。

「修行じゃなくて試練だったな」

坂井代表のこの言葉が、当時の辛さを物語っていました。この試練に、5年も取り組みました。というか、「耐えた」という表現の方が正しいかもしれません。「苦労なんかしてない」という言葉は、何だったのでしょうか。地獄のような厳しい修行時代を送ってきました。やはり自分の店を持つ事は簡単ではないのです。坂井代表は遠くに視線を送り、一息ついてから、再び話し始めました。過去の武勇伝を話す様でした。

中でも一番驚いた話がカットモデルの話です。モデルが捕まらなくて、困っていた坂井代表は、ナンパしてモデルを捕まえます。ナンパして、その人でカットの練習をします。そこまでして坂井代表は、修行に取り組みました。

「本当にカットモデルとして捕まえたから、カットして終わり。今ならその後どうしたか分からないけどね。あの頃は一人前の美容師になりたくて必死だった。他の事なんて気にしている余裕なんてない、とにかく必死さ。」

正直男なら遊びたい時期です。しかし、当時の坂井代表は、そんな考えは全く出てこなかったと言うのです。私にはとても真似出来る事ではありません。自分がカットの練習がしたいから、その相手を探しに行く、自分の腕を磨きたいからナンパする。周りの目なんか気にしていません。というか、見えていなかったのでしょうか。それほど坂井代表は必死だったのです。一人前の美容師になりたいという「一心」が生んだ行動だと思えます。早く一人前になって、早

く自分の店を持つという、大きな「目標」が坂井代表を自然と動かしました。

簡単に自分の店を持つ事なんて出来ないのです。「自分の店を持つ」という大きな目標を掲げ、必死に突き進むひたむきな情熱が、坂井流の極意なのです。

今の私には大きな目標もなく、課題をよくわからないまま取り組んでいます。当時、坂井代表はその修行に「なぜこんな事まで」と頭を抱えて取り組んでいました。今の私はもっと「なぜこんな事まで」と考えながら取り組んでいます。でも、これでいいのです。

この修行の本当の意味はもう少し時間がたってから分かる事だと思います。私もとにかく今、目の前の課題に必死に取り組んで、乗り越えていきたい。課題の本当の意味は、後から分かると信じています。坂井代表に教えていただきました。

「必死に取り組む事」の大切さを。

また、坂井代表は、店を持つという大きな目標を達成しても、それで終わりではありません。もう、次の目標があります。「今のお客様を大事にする」この目標は以前よりも重く大きなものになっています。お客様をはじめ店に関わる人全てを背負う大きな責任があるからです。もちろん、今の坂井代表なら新しい目標も乗り越えてくれると思います。

私はその証拠を見つけました。いつも立っているレジ前で、坂井代表の背中から感じる「見えない力」です。レジ脇の壁にはいろいろな方の名前が刻んでいます。お客様の名前、店に関わっている人の名前、いろいろな名前を見ることが出来ます。それは「名刺」でした。初めて見ました。自分の店の壁に「名刺」を貼っている人を。私は会社に帰ってからも「なぜ坂井代表はあんな事をするのだろう」と考えました。なかなか答えは出てきませんでした。でも私が代表で、名刺を壁に貼っていたらどんな気持ちなのだろう、立場を変えて考えてみました。自分がお世話になった人達が常に自分の周りにいて、その人達の「ありがたさ」を感じながら、感謝の気持ちを持って仕事ができる。もちろん責任という重圧も近くに感じてしまう。そんな答えにたどり着きました。

つまり坂井代表は

「人との出会いを大切にする」

そういう人なのだと、思いました。私もこれから、人との出会いを大切にし

なくてはなりません。またひとつ教えていただきました。

この名刺の人達は坂井代表と共にヘアーデザインアースを創り、支えてきた人達です。私もそのひとりになりたいです、坂井代表の背中を押させて下さい。

上下デニムに身を包んだ美容師は、自慢のハーレーにまたがります。アクセルを回すと、一気に加速し、爆音と共に砂煙をあげて走っていきます。

「ヘアーデザインアース」坂井健司代表、
ハーレーに乗った美容師は今日も走り続けています。

株式会社 和光ベンディング
波田野 祐一